

この春も『年報太宰府学』をお届けできることをうれしく思います。

第三号には、森弘子委員・藤岡健太郎氏に貴重なご論考をお寄せいたのをはじめ、川添昭二顧問・森哲也氏からは文献目録をご提供いただきました。どうもありがとうございます。

森委員の論文は、太宰府市による発掘調査の成果をふまえつつ、文献史学の立場から六所宝塔を比較分析し、九州で建立された宝塔の設置の経緯や意味を明らかにしたものです。

藤岡氏の論文は、同氏による市史掲載論文を補完するもので、太宰府を拠点に活動した日蓮宗僧侶高鍋日統が中心的役割を果たした蒙古軍供養塔建立運動を、当該期の外交問題の視点から考察したものです。川添顧問・森氏編の目録は、該分野の研究において基礎的かつ貴重なデータで、本書に収録できましたことを光栄に思います。

また、昨年末にご逝去されました有吉林之助氏からご寄贈いただいた資料群を「有吉家文書目録」として掲載いたしました。ご協力いたしましたご家族の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、心より有吉氏のご冥福をお祈り申し上げます。

そして最後になりましたが、九州大学総合研究博物館の宮崎克則准教授には、九州大学デジタルアーカイブでの当資料室所蔵資料目録の公開をご快諾いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。皆様のご協力のもと、本号も陽光の下の桜のごとく満開となりました。今後も「太宰府学」のさらなる探求を志し本書の刊行を進めていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

(F)

